なりたの昔話

第3回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載していきます。

【参考文献】コミュニティ成田No.35（平成3年発行：成田市）

ぼた餅は化物

男が嫁さんをもらいました。嫁さんは料理じょうずで、よく働きました。

ある日、嫁さんの実家から、

「一度、暇があったら遊びにきておくれでないか」といってきました。男は喜んで、

「そいつは有り難い。ぜひお邪魔させていただきます」

と返事をしました。さっそく翌日、嫁の実家にでかけていきました。道すがら『料理じょうずな嫁の家のことだ、さぞ、うまいものがでるんだろう』と期待に胸をふくらませました。期待どおりに、実家ではご馳走が待っていました。なにしろ初めて婿さんが来てくれるというので大わらわで料理を作りました。

男は、次々と運ばれてくる料理に舌つづみを打っていました。小用に立った時、台所の陰で子どもがしかられています。

「これは、おっかねーもんだ。決して食べてはなんねえ」

その声に、男はすっかり脅えてしまいました。それは、男の知らないものでしたが、ぼた餅だったのです。そうしているうち、そのぼた餅がとうとう男の前に出てきました。

「さあ、食べてください」

といわれても、男は食べられません。ブルブルふるえながら、『おれは見てたんだぞ、おっかなくて食べられないものをもう少しで食べさせられるところだったぞ』と思い、

「もう腹がいっぱいで、なんにも食べられない」

とうそをつきました。

嫁さんの家では、せっかく作ったのに食べられないというので、

「それじゃ、土産に持って帰ってくれ」

と、重箱に入れ風呂敷に包んでくれました。

男は、こわごわとその風呂敷をつかみ、嫁さんの家から帰ってきました。途中の道ばたに長い棒があったので、

「これはちょうどよいものがあった」

風呂敷を棒の先にくくりつけ、肩にかつぎました。

しばらく歩くと急な下り坂にさしかかりました。棒の先にしばりつけた風呂敷が、スルスルとすべってきて首筋にあたり、その拍子にぼた餅が飛び出しました。

「おっかねえー。お化けがでたあー」

男は重箱のなかのお化けが飛びついたと思い、棒を放り出して逃げだしました。

編集後記

昨年から節電対策の一環として扇風機の使用が増加しているようです。中には10年を超える長期間使用されているものも多いとのこと。経年劣化した内部部品や電気配線などから火花が出るなどの電気的な要因で、火災が発生することもあるようです。8月は「電気使用安全月間」。高温多湿な夏季は感電事故の多い季節でもあるそうです。皆さんのご家庭でも電気の安全点検をしてはいかがでしょうか。

平成24年8月15日号　No.1225

成田市のホームページ

http://www.city.narita.chiba.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用しています。

平成24年8月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111（大代表）